



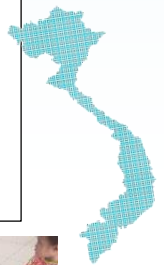
本校は、2009年に西日本第1号の国際バカロレア（IB）DP認定を受けた一条校で、生徒はグローバル社会のリーダーを目指し、学内外で様々な活動に取り組みます。

3名の生徒がベトナムの孤児院でのボランティア活動に参加



塗り絵が完成

IBディプロマコースの高2から、ワイルドくん・小崎さん・グエンさんの3名が、この夏、事前に全校生徒に呼びかけ、回収したおもちゃや文房具を支援物資としてベトナムの孤児院に届けてきました。この孤児院は、設立されてまだ7年目の新しい施設ですが、多くの人々の支援を受けて子ども達は伸び伸びと生活しているようです。おもちゃを届けると、蜂の巣をつついたような騒ぎになったそうです。けれども、頻りに施設の玄関に赤ちゃんが置きざりにされていくのが現状のようです。



人間ジャングルジムと化したワイルドくん



0～2歳児のクラスで

《参加したワイルドくんのコメント》

英語も日本語も通用しない中で、コミュニケーションが図れるのか心配しましたが、言語の壁を感じる暇などないほど、彼らはエネルギッシュでした。ベトナムには日本の約40倍の孤児がいます。この現状自体は私たちの今の力では変えることはできませんが、今回私たちが経験し感じたことを多くの人に知ってもらうことがこの現状を変える一歩になると思います。協力してくださった生徒のみなさん並びに保護者の方々に感謝申し上げます。2日間子どもたちとのふれあいは、忘れられないものになりました。

物資の支援はあるようですが、増え続ける孤児を世話するスタッフの人手不足を感じたようです。



第3回全国高校教育模擬国連in東京に本校から8名が参加

8月7日(水)・8日(木)の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。本校からはPre-IB10の生徒6人とIB11の生徒2人が参加しました。約700名の高校生が「国際移住と開発」というテーマで5議場に別かれて議論しました。自国の意見を発信することに苦戦したり、他国の積極性に圧倒されたりしながらも、DR（決議案）作成のため他国と意見をまとめることが出来ました。参加した生徒は、今回の経験と反省を今後の活動に活かしてほしいと思います。



《参加した高1^{いちばら}原さんのコメント》

私は、フィジーの大使になりきって他国の大使の方々と「移民問題」について1つの政策を作り上げました。様々な問題に精通している他校の高校生に圧倒されるばかりでした。自分の意見をしっかり主張することの必要性を身をもって感じる事ができ、とても楽しく、いい経験になりました。

インド大使としてスピーチする高2の高山くん(下)



会議は、A～Eの5議場に別かれて行われました。写真は、E議場のメンバー達との集合写真です。(上)



第39回全国高等学校クイズ選手権 準優勝 おめでとう!



大会HPはこちら⇒

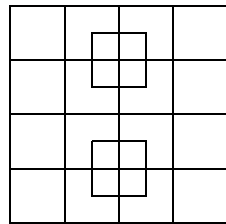


本校の高校2年生の伊崎くん・上村くん・野村くん3名が、広島県代表として、全国大会に出場しました。その様子は、9月13日に日本テレビで放映されました。初出場ながら全国の最速タイムで代表決定戦を通過し全国大会に臨みました。全国大会でも、彼らは数々の難問をクリアして決勝3校までコマを進めることができました。惜しくも優勝とはなりませんでしたが、3人の激闘ぶりは、一躍話題となり、一時本校ホームページもアクセス集中でダウンするほどの注目を浴びることになりました。

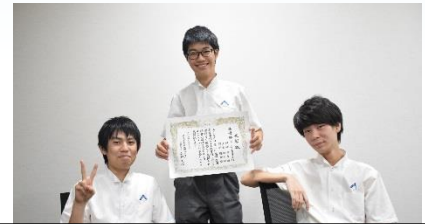
撮影時のゼッケン姿で



《予選で野村くんが一瞬で解いた問題》



正方形は
何個ありますか?



準優勝の賞状を手に記念撮影

《伊崎くんのコメント》



準備は、過去の放送を見て復習していました。緊張は特にしませんでした。強いて言えば、全国一斉予選のときの1問1問の重みがひどかったです。でも、自分の精一杯が発揮できたと思います。周りは、強豪校・名門校ばかりで、そこにプレッシャーは感じましたが、決勝まで残った学校の人とは随分長い時間を共に過ごしたので仲良くなりました。今度洛北の人と再会するために京都に遊びに行く予定です。

《野村くんのコメント》



とにかく緊張しました。収録前の控え室でガクガク震えていました。酔で染み抜きができるかどうかで、あれほど緊張したのは、世界で僕だけだと思います。僕の活躍が全カットされるというテレビの編集技術の高さにびっくりしました。そして、ただで5日も東京で泊まれたことが嬉しいです。(笑)

《上村くんのコメント》



普段の生活では経験できないテレビの舞台裏を見ることができました。いつの間にかトントン拍子で決勝まで進んだので大きな苦労はなかったんですが、各ラウンドの収録前はとてつもなく緊張しました。3人の連携が問われる局面が多かったので、とにかく3人仲良くすることを心がけました。芸人千鳥さんや司会の榎さんの臨機応変さには舌を巻きました。できるものなら来年も同じメンバーで優勝を目指したいです。

第36回高校生の手話によるスピーチコンテスト出場

東京有楽町朝日ホールで開かれたコンテストに、高3の福田さんが出場しました。「かわらない心で」というテーマで、手話との出会いや将来の夢について生き生きと語りました。開会式では、秋篠宮家の長女眞子さまが手話で、新元号発表のテレビ中継などで手話通訳がついた例とともに、「手話という言語が広がり、聴覚障害に対する社会の理解が進んでいることを感じます」とお言葉を頂きました。残念ながら入賞は逃しましたが、様々な人たちの交流は彼女を成長させてくれるものだったようです。



手話は高校生になってから始めました。

《福田さんのコメント》

スピーチの途中から緊張が高まり、足が震え始めました。何とか最後までやりきることができホッとしたのも束の間、別室で眞子さまからお声をかけていただいて、再び緊張しました。この経験を忘れず、社会に貢献していけるように努力を続けたいと思います。



《コンテストの概要》

1984年に第1回が開かれおり、聴覚障害者福祉の向上に大きな役割を果たしてきたコンテストです。第1次審査で、全国から寄せられた弁論原稿の中から30人が選考され、第2次審査(映像審査)では、課題文を手話を使って表現し、録画した映像を提出し、コンテスト出場者10人が決定されます。コンテストでは、各自が提出した弁論原稿をもとに手話による4分以上6分以内のスピーチ、および手話による審査員との質疑応答が行われます。